

# わたしとこの町

## File16 上徳山町



大口さんの自宅周辺にある薪の置き場。薪ストーブのある家との交流の輪も広げたいと大口さんは話します。

私はこの町で生まれ、今はこの地で里山の整備・保全活動をしています。大学は東京で暮らし、就職後も銀行員として転勤生活を送っていました。50歳を過ぎたころから老後の生活を考えるようになりました。そんな時に思い浮かべるのはいつも、ふるさとの姿でした。自然豊かなふるさとでゆつくりした生活を送りたいと思い、長男ではありませんがUターンし、定住しました。

帰って来て気づいたのは、小さい頃に遊んでいた里山が荒れてしまっているということでした。かつての里山の姿を取り戻したいという思いで、市民団体「能美の里山ファン倶楽部」に参加しました。



↑ 昨年の菌植え体験の様子。親子での参加も歓迎しています。→ 菌を打ち込まれた原木は2年目から4年間キノコが採取できます。



10年以上続けているので、里山整備や地域活性化活動の仕方など多くのことを身につけることができました。私はそこで得た知識と経験を、次は上徳山町で活かしたいと考え、昨年、町の有志の皆さんと「上徳山里山整備保全有志」を立ち上げました。

上徳山町は山間に旧集落世帯、



上徳山里山整備保全有志 代表

おおくち ひさし  
大口久司さん

平地に新興住宅地があります。パークキュー大会や公民館活動で付き合いはありますが、距離があるため、町会と協力しながら里山整備保全の活動をすることで、町民全体の交流が少しでも図れるようにしたいです。昨年は伐採した広葉樹を利用し、シイタケ菌とナメコ菌の打ち込み体験を行いました。この町の周辺では、ゼンマイやタラノメ、ウドなどが採集できます。里山散策のコースも近くにあるので、里山ガイドハイイクや薪割り、山菜取りなどを組み合わせたいイベントを企画し、町の活性化の一助となればと考えています。

## File15 下ノ江町



下ノ江町の秋祭りでの演奏の様子です。町内の祭りには毎年出演し、おそろいの衣装を身にまとい、和太鼓の音を響かせています。

下ノ江町芸能保存会のこだま太鼓は、この地域に受け継がれた豊年太鼓をもとにした新しい創作太鼓により、郷土芸能を後世に伝えようと、平成3年に町内の女性有志によって結成されました。私自身は結成から数年後にこの和太鼓チームのメンバーとなり、会長も約15年間務めています。



年明け初めての練習の様子です。久々の練習にも関わらず、皆さんの息の合った演奏をされていました。

こだま太鼓は今年で結成29年目を迎え、現在は男女8名で活動しています。普段の練習は、町民の皆様からのご理解とご協力をいただきながら、毎週水曜日の夜間に公民館を利用して行っています。

普段の練習の成果は多くの場で披露しています。7月に開催される根上り七夕まつりには毎年出演しており、その他にも、辰口まつり等の祭りや各種イベントに数多く出演しています。これまでには、京都の北野天満宮で奉納太鼓を披露したり、ロシアのシエレホフでも演奏を披露したりと、チームとして非常に貴重な経験をさせてい



下ノ江町 こだま太鼓会長

まえ しゅういつ  
前秀逸さん

ただきました。近年ではチームの高齢化が目立ち、後継者の重要性を感じています。これまでに子どもたちの和太鼓チームや町内の祭りでの演奏を通して、和太鼓の素晴らしさを伝えてきました。これからは、町内はもろろんですが、より多くの方に私たちの活動に興味を持ってもらい、地域とのつながりを大切にしていきたいと思っています。今後私たちの和太鼓の響きで、皆様に感動を伝えられるように、そして、伝統あるこの郷土芸能を、後世に伝えられるように日々練習に励んでいきたいです。